

寺崎組新聞

第八十三号

発行所 寺崎組新聞社

奥飛驒に屋台出現か！

第百十三回 野宿整報告



「寺崎組」とその組会の事は、以前から知っていた。多分、寺崎組のホームページを見て知ったと思う。一九八八年頃から「アウトライダー」で「ナチュラールリング」を読み始め、寺崎勉氏（以下寺さん）の存在を知り、寺さんの旅（ツーリング）や文章に引き込まれた。それから十八年後の二〇〇六年十一月四日・五日、岐阜県丹生川の組会（塾）に参加し、ナマの寺さんに会う事ができた。

【運刻】

十時過ぎまで、娘の通っている小学校の校庭でサッカーのコーチ（の手伝い）をしていた。来週の日曜日に地元自治会対抗小学生サッカー大会が行われるので、この二ヶ月、校庭を借りて練習してきた。監督とコーチがいるのだが、手が足りないのでも手伝っている。早めにあがらせてもらう予定だったが、ケガ人がでて（脱臼）予定より遅くなってしまった。家に帰って支度をし、出発したのが十一時少し前。市内の本屋に寄って「ツーリングマップル4 中部北陸」を買ったのが十一時。集合時間十二時は無理として、出発時間十三時にも間に合わないか？ 蝶が原林道の下、国道二五四号三才山トンネルを越え、松本から上高地へ向かった。

そのひと月前、十月九日（体育の日）、バイク仲間（僕のラフロード走行の弟子）で仕事仲間（彼が半年前に入社）でもあるアオキモリヤ氏が、近所の「蝶が原林道」（上田市と松本市を結ぶ国道二五四号三才山トンネルの上を通る道）をXLR250Rスペシャルで単独走行中転倒した。久しぶりの林道走行なのに結構飛ばしていたらしい。不用意にフロントブレーキをかけたのか、直線の転倒だったようだ。その際（バイクは起こしてもええが）、エンジンもかけてもらえなかったが、声をかけてくれたのが、ジムニーで単独走行中の寺崎組員のコモロのセンセイ。痛くてたまらないのに、さんざん自慢話を聞かされ、十一月に寺崎組の組会というのがあるから参加しない？ と誘われたが、右肩が痛くてそれどころじゃない。痛いのがまわって自力走行し、何とか近くの緊急医に駆け込むと、右肩「亜脱臼」との診断。カミさんやオフクロさんの送迎で、翌日から会社に来てはいたが、一週間は使えないならなかつた。「オレは行けないけれども、チノさんどうだい？」と言われ、どうしようか迷ったが、これも何かの縁だと考え、参加する事にした。

【林道走行】

十四時、スーパの駐車場を後にする。ここで帰る組員の一人が見送ってくれた。寺さんを先頭に一列になつて進む。自分は十二人のうち八番目ぐらいだったか。実は三人以上の集団でのツーリングというのは数えるほどしかしたことがない。林道を走るのもゴールデンウイークに四国の「剣山スーパール」を通じて以来半年ぶり。林道に入る前の舗装路でも結構ペースが速いなと感じた。林道突入。寺さんを始め先頭の何人かはいいペースで先に行つてしまふ。久しぶりにガードレールの無いラフロード、枯葉も積もっており、ビビリながら進む。前のバイクに付いていくのが精一杯。分岐のたびに停まって待たせていてくれたので、道をまちがえることは無い。



四十分程走って休憩。昼食をとつていなかったので、パンとバナナを豆乳で流し込む。寺さんはKTMではなく、ホンダのトライアル車。ライトカウルのひび割れを補修しているブラックジャックのようなツギハギがおしゃれ。組員のバイクはXR系が多く、KTMや、セロー、スズキ等。パッキングも様々。（編集者注：今回の参加者は、組長：つぎはぎTLR200、赤貧：CRF250R、地下鉄：KTMILC4E、アベ：XR650R、三浦2号：XR650R、チノ：XR650R、メザシ小ガ金井：XRIBAJA、メザシ小

林：XR250R、ガス屋平林：セロー、ヤンマーノムラ：荷物満載セローの十二名）セローは荷物満載。寺さんはじめ、登山用の大きなザックを背負っている組員が多い。休憩後、再び走り出す。キャンプ地まであと少しというところに難所があった。上り坂、道に沿って雨水が流れた跡が深いわだちになっている。なんとか耐えて進むものの、大きくエグれたところで前輪をとられ転倒。といっても、V字になっていたので、バイクは45度程傾いた。エンストしてしまつたが、そこでは踏みおろせないので、キックできるところまで下がる。後ろの人がバイクを支えてくれている。十数回のキック後、ようやくエンジンがかかる。バイクを支えてもらいつつ、ようやく抜け出した。百メートル程進んだところで皆さん待っていた。後ろの組も苦労しているらしく、しばらく待つ。自分のザックに余裕があるにもかかわらず、他人の荷物に酒をくくりつけた組員がいて、その酒が落ちたらしい。か弱き（？）女性のセローの荷物をさらに増やした事、酒を落とす事に對し、非難GOGO！（編集者注：小林除名決定的？）

【宴会】

そこから、少し行った突き当りが本日の野宿地。時刻は十六時を少し回ったところ。各々テントを張る。円形に張ったテントの中心に焚き火。十七時にはテントの背に、焚き火に向かつて腰を下ろし、料理をしつつ酒を飲むという状態に突入した。



28日、野宿地の林道

ていた。自分も「ぐびなま」を飲みながらめかぶのサラダとか、寄せ鍋風のものを作る。隣では三浦2号氏が、たこ焼きを作成中。しばらくすると、出来上がった料理が次々と回ってくる。仕入れ先が同じなので、メニューが偏りやすいという欠点があるが、すばらしいシステムだ。今回はキムチ系が多かった。そのうち、新人への質問、各自の自己紹介、近況報告などが始まった。結構、離婚経験者が多い。「ぐびなま」を飲み終え「いいちこ」のお湯割りをチビチビやりながら耳を傾ける。宴会中、「目線ください！」「などと声をかけ、何枚か写真を撮った。「それはD80？」という寺さんの鋭いツツコミ。「いいえ、D70です。」

野宿地の周りには倒木が多く、焚き火のネットには困らない。トイレタイムの際に拾ってきた木を焚き火に放り込む。その後、歌を中心にしたショータイム。寺さんの振り付き「スーダラ節」も拝聴できた。自分も「時代おくれ」、「トランジスタラジオ」など、何曲か歌わせてもらう。バイクネタ、ツーリングネタ、熊ネタ、鉄道ネタ、音楽ネタなど話題は様々。歌も様々。眠くなってきたので、二十三時頃には寝袋に潜り込んだ。

【二日目】

六時過ぎに起床。しばらくぼーっとしていたが、周りで朝食の用意が始まる。自分も食パンにハム、キャベツなどを挟んで簡単なサンドイッチを作る。七時過ぎから朝食タイム。夕べの宴会と同じ配置で座る。焚き火もまだ、チロチロと燃えている。ゆつくり朝食をとった後、朝の儀式があちこちできりおこなわれた。テントを撤収し、出発の準備をする。リュックから「ナチュラールリング」とマジックインキを取り出し、寺さんにサインしてもらった。「茅野の諏訪さんへ」「ん？」名前が違っているような気が。寺さんとツーショット写真、ゴ三浦さんにシャッターを押してもらった。年賀状用というので、他にも何人かがツーショット撮影を申し出ていた。九時半を過ぎた頃、野宿地を出発。本日は六、七番手。昨日転倒した場所は、ビビリながらも何とか切り抜けた。最初の休憩地点に川があった。「あの水は飲めるんですか？」と寺さんに聞いたが、「それは判らない」と冷たく言われてしまった。そりゃ



撮/4)

そうだが、誰かに水を貰えばよかったのだが、頼みづらくて、しばらく喉の渇きに苦しむ。再び走り出すが、ジャリが深いところがあり走りにくい。後続集団では転倒者も出てきた。前のバイクからずいぶん遅れてしまふ。林道走行の未熟さを痛感した。二度目の休憩場所は、尾根伝いの分岐点。眺めが良かった。そこから下って、商店の前で三度目の休憩。「御用の方はこの番号に電話を」という看板があったが、電話しても繋がらなかった。自動販売機で500ミリのポカリスエットを購入。一本あつというまに飲んでしまったので、二本目を買う。時刻は十一時前。これから、再び山へ上がって屋敷との事。実は、十五時頃迄には上田に帰りたい。地元ハレーショップで自動車学校を借り切った試乗車が十六時まで行われており、それに参加したいのだ。「ちよつと用事があつて」といふことで、ここで別れすることにした。夕べ残った「いいちこ」をポカリの空きボトルに移し替え、ゴ三浦氏に手渡す。寺さんから、「ぜひまた参加して」と、温かい言葉をいただく。「ありがとうございまして。気をつけて！」と、再び山に向かう十一人を送り出す。十一月とは思えない温かさだ。良く晴れた高山の空の下、XR650Rに跨る。キック一発、エンジンが鼓動を開始した。

